

リハビリテーション部 PT/OT/ST レジデント制度について



社会福祉法人
恩賜財団 **済生会熊本病院**
SAISEIKAI KUMAMOTO HOSPITAL

リハビリテーション部のご紹介

■ 基本方針

- ① 重点的な**急性期リハ**を実践する
- ② 廃用症候群を積極的に予防する
- ③ 地域の医療・福祉機関との円滑な連携を図る

リハビリテーション部の強み

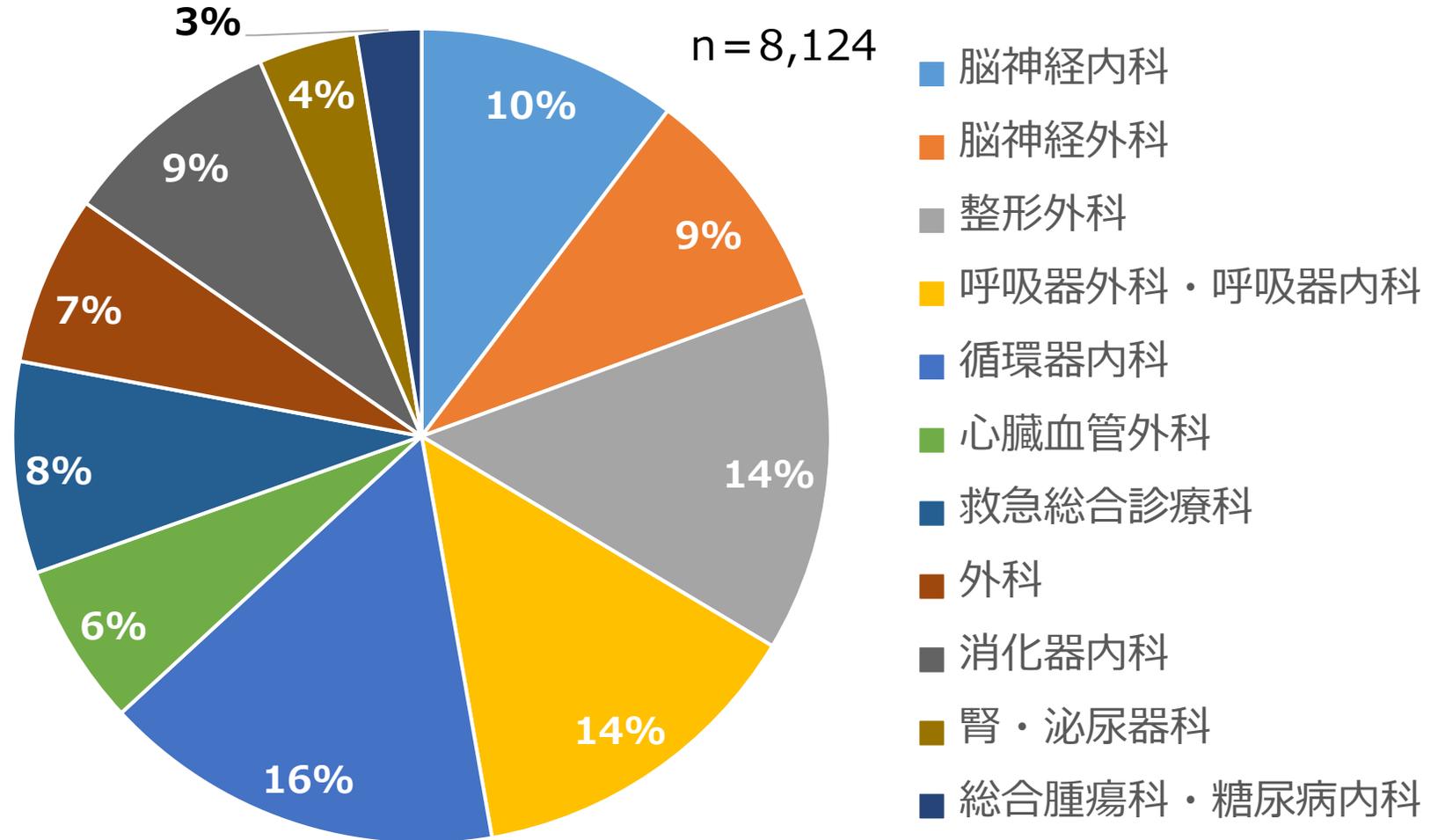
- ◆ 日本有数の症例数
- ◆ 入院早期からの迅速な介入
- ◆ 6つの疾患別チームによる高い専門性
- ◆ 豊富なベテランセラピストが在籍
- ◆ 資格取得の推進
- ◆ 本気の人材育成

リハビリテーション部の強み

- ◆ 日本有数の症例数：**年間約8,000例**
- ◆ 入院早期からの迅速な介入
- ◆ 6つの疾患別チームによる高い専門性
- ◆ 豊富なベテランセラピストが在籍
- ◆ 資格取得の推進
- ◆ 本気の人材育成

診療科別のリハ依頼件数

2023年度



リハビリテーション部の強み

- ◆ 日本有数の症例数
- ◆ 入院早期からの迅速な介入
- ◆ 6つの疾患別チームによる高い専門性
- ◆ 豊富なベテランセラピストが在籍
- ◆ 資格取得の推進
- ◆ 本気の人材育成

入院早期からの迅速な介入

- 入院（手術）翌日までのリハビリ依頼率は**95%※**

（※ 入院翌日までのリハビリ依頼件数/リハビリ依頼件数の総数）

- 2015年から全入院患者に対し、入院翌日までのリハビリスクリーニングを実施し、早期リハビリ依頼を実施
- 2011年から**365**診療体制：シームレスなリハビリ医療の提供
- 集中治療系72床における早期離床リハビリ加算の算定率は**80%**
 - 多職種協業により高い算定率を維持している
 - 職種間の連携が取れており、質の高いチーム医療が実践できている

リハビリテーション部の強み

- ◆ 日本有数の症例数
- ◆ 入院早期からの迅速な介入
- ◆ 6つの疾患別チームによる高い専門性
 - ・ 専門科医師との**緊密な連携**
 - ・ 垣根のない**職種間連携**
- ◆ 本気の人材育成

疾患別リハビリテーションチーム

- スタッフ数は**44名**
- **病棟配属制**をとっており、専門診療科医師や看護師など多職種と緊密な連携が可能
- 薬剤師や栄養士も病棟配属制となっており、メディカルスタッフ同士の連携も密

集中治療リハチーム	PT 7名 OT2名	ST7名	救急科/総合診療科
脳卒中リハチーム	PT 3名 OT3名		脳神経内科/脳神経外科
運動器リハチーム	PT 4名 OT2名		整形外科
心臓リハチーム	PT 7名+非常勤PT1名		循環器内科/心臓血管外科
呼吸リハチーム	PT 3名 OT2名		呼吸器内科/呼吸器外科
廃用リハチーム	PT 3名 OT1名		外科/消化器内科

リハビリテーション部の強み

- ◆ 日本有数の症例数
- ◆ 入院早期からの迅速な介入
- ◆ 6つの疾患別チームによる高い専門性
- ◆ 豊富なベテランセラピストが在籍
 - ・ 経験年数10年以上が**約7割**
 - ・ 認定理学療法士や認定作業療法士など様々な資格を有するセラピストが指導を行う

リハビリテーション部の強み

- ◆ 日本有数の症例数
- ◆ 入院早期からの迅速な介入
- ◆ 6つの疾患別チームによる高い専門性
- ◆ 豊富なベテランセラピストが在籍
- ◆ **資格取得の推進**
- ◆ 本気の人材育成

スタッフが有する様々な資格

呼吸療法認定士：26名

心臓リハビリ指導士：8名

腎臓リハビリ指導士、**認定理学療法士（循環）**、

認定理学療法士（脳卒中）、**認定理学療法士（呼吸）**

認定作業療法士、**集中治療理学療法士**、

心不全療養指導士、**NST専門療法士**、**公認心理士**、など

上記資格取得者による充実した指導と
資格取得に必要な費用を病院が負担し、
スキルアップを支援します。



2年間で取得できる資格

- 登録理学療法士：前期研修の修了
- 認定作業療法士：取得に必要な研修受講や事例報告作成を支援
- 呼吸療法認定士：取得に必要な講習受講を支援
- 心臓リハビリ指導士：取得に必要なレポート作成を支援
- 腎臓リハビリ指導士：取得に必要なレポート作成を支援
- **心不全療養指導士**：取得可能
- **医療安全推進者**：取得可能
- **BLS/ACLS/FCCSプロバイダー**：取得可能



2年間の間に取得できる資格には限りがありますが、3年目以降に取得できるように支援します！

リハビリテーション部の強み

- ◆ 日本有数の症例数
- ◆ 入院早期からの迅速な介入
- ◆ 6つの疾患別チームによる高い専門性
- ◆ 豊富なベテランセラピストが在籍
- ◆ 資格取得の推進
- ◆ 本気の人材育成：**レジデント制度**

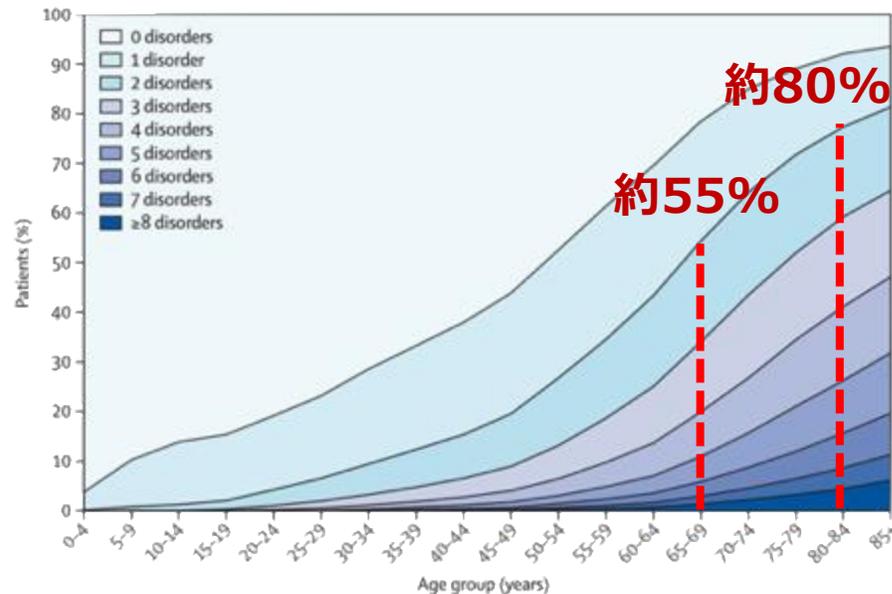
何故、レジデント制度なのか？

何故、レジデント制度なのか？

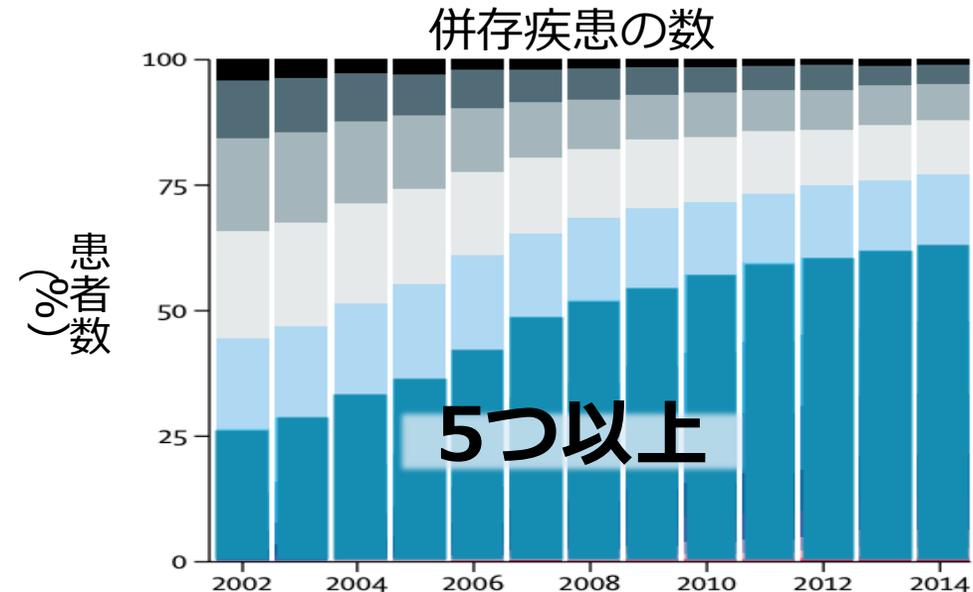
- 当院における2022年度リハ実施患者の年齢：**75.6**±14.1歳

80歳以上：**46.0%**

- 多くの患者が**多疾患併存**状態であり、多くの疾患の知識・経験が必要



Lancet 2012; 380: 37-43



Lancet 2018; 391: 572-80.より引用改変

疾患専門の管理から多疾患統合管理へ

- 集中治療系病棟（ICU/EW/EHCU/HCU）：72床（18%）

- 救急だけでなく、循環器や呼吸器、中枢神経系など多くの患者が入室

意識障害、急性呼吸不全又は慢性呼吸不全の急性増悪、急性心不全（心筋梗塞を含む）、急性薬物中毒、ショック、重篤な代謝障害（肝不全、腎不全、重症糖尿病など）、大手術後、心肺蘇生後、外傷、脳卒中など

- 集中治療系病棟からのリハ依頼：全体の37.2%



- 集中治療リハチームで研修を行うことで、**多疾患併存患者への対応**を学ぶ
- 一般病棟退室後は、疾患別の専門チームの指導のもと、**専門的な介入**についての対応を学ぶ

レジデント制度

- ◆ 当院のレジデント制度は、高度急性期のリハビリテーションを担う未来の人材を育成することを目的としています。
- ◆ 超急性期から様々な疾患の患者さんを経験できる当院の強みを活かしてレジデント研修を行い、卒前教育と卒後教育をシームレスにつなぐ研修プログラムを構築し、優れたセラピストを養成します。
- ◆ 研修期間は最長 2 年間となります。

レジデント制度の対象

- ◆ 急性期リハビリテーション医療を学びながら働きたい方
整形・呼吸・心臓・脳卒中に関して専門性を高めたい
大学院に通いながら臨床経験を積みたい
- ◆ 急性期で豊富な症例を経験しスキルアップしたい方
- ◆ 各学会での発表やプレゼンテーションスキルを磨きたい方

当院のレジデント制度の特徴

- **高度急性期のリハビリテーション**が学べます
- **豊富な症例**（処方数は全国トップクラス）を経験できます
- **一人一人の学びたいこと**を支援します
 - **充実した教育体制**が整備されています
 - 教育・技術担当者が**1対1**で指導します
 - 土日・祝日の勤務は無く、時間外勤務もほとんどないため、様々な研修会に**公費**で参加できます

レジデント教育体制

<Off-JT>

- **全国のレジデント制度実施施設**による合同研修会（1回/月）
- 各疾患別チーム講師による講義（毎週）
- OT症例検討会（毎週）、ST多施設症例検討会（6回/年）、高次脳機能障害を学ぶ会（2回/年）、四肢外傷リハビリ勉強会（2回/年）など

<OJT>

- 教育・技術担当者による直接指導

<SDS:自己啓発支援制度>

- オンライン英会話講座
- 各種通信教育講座
- 英文翻訳・校正や文献取り寄せなど

レジデント合同研修会

- 全国のレジデント施設と合同で研修会が開催！
- 各地のレジデント同士の交流会も今後検討中！

		講師	テーマ
2021年度	第1回	高橋哲也（順天堂大学）	
	第2回	江草典政（島根大学医学部附属病院）	PT・OT・STとして成長を続けるための物事のコエ方
	第3回	長尾大志（島根大学医学部附属病院）	やさしい胸部X線写真読影
	第4回	阿部貴文（魚沼基幹病院）	レジデントのキャリアデザイン
	第5回	西原浩真（神戸市立医療センター 中央市民病院）	治療に生かせる！ PT・OT・STに必要なフィジカルアセスメント（～視て、聴いて、触れてわかるICUの世界から）
	第6回	對東俊介（広島大学病院）	集中治療領域のリハビリテーションをすすめるには
	第7回	吉村芳弘（熊本リハビリテーション病院）	栄養
	第8回	川越雅弘（埼玉県立大学）	地域包括ケア構築に向けた制度改正の動向とリハビリテーション療法士に期待される役割・機能
	第9回	瀬尾龍太郎（神戸市立医療センター 中央市民病院）	リモート時代のプレゼンテーション
2022年度	第1回	吉尾雅春（千里リハビリテーション病院）	脳卒中リハビリテーションの“当たり前”について再考する
	第2回	神津玲（長崎大学病院）	急性期の呼吸リハビリテーション：その考え方と実際
	第3回	伊藤俊一（北海道千歳リハビリテーション病院）	運動器の傷み～特に腰背部痛に対して～
	第4回	塩田繁人（広島大学病院）	活動と参加に焦点を当てた高度急性期病院における生活行為向上マネジメントの実際
	第5回	曾田幸一郎（兵庫医科大学）	周術期における痛みと理学療法
	第6回	南都智紀（京都先端科学大学）	摂食・嚥下リハビリテーション（STの立場から） -嚥下の基礎とSTからのお願い-
	第7回	齋藤正和（順天堂大学医学部附属病院）	臨床疑問との向き合い方
	第8回	村木 孝行（東北大学病院）	臨床で生かすための肩関節のバイオメカニクス
2023年度	第1回		レジデント施設紹介
	第2回	西上智彦（県立広島大学）	急性期から注意したい慢性痛の基礎とチェックポイント
	第3回	中野義之（尼崎総合医療センター）	循環器リハを進めるうえでおさえておきたいポイント
	第4回	本田寛人（四條畷学園大学）	糖尿病の運動療法と合併用への対応

全国のレジデント制度 実施施設

- 広島大学病院（広島）
- 島根大学医学部附属病院（島根）
- 神戸市立医療センター中央市民病院（兵庫）
- 兵庫県立病院（兵庫）
- 兵庫医科大学病院（兵庫）
- 桜十字福岡病院（福岡）
- 長崎大学病院（長崎）
- **済生会熊本病院（熊本）**



- 札幌医科大学附属病院（北海道）

- 福島県立医科大学（福島）

- 東京慈恵会大学附属病院（東京）
- 小田原市立病院（神奈川）
- 獨協医科大学日光医療センター（栃木）

- 静岡がんセンター（静岡）

各疾患別チーム講師による講義

- 毎週木曜日 13:00～13:30

<2025年度の講義内容>

1. 脳卒中

- 基礎知識
- 脳の解剖・生理
- 脳画像診断の基礎
- 急性期の評価
- 早期リハの重要性
- 脳卒中のリハビリテーション
- 脳卒中の合併症
- 多職種連携と地域連携

2. 脆弱性骨折

- 脆弱性骨折（総論）
- 橈骨遠位端骨折
- 大腿骨頸部骨折
- 上腕骨近位端骨折
- 大腿骨頸部骨折
- 脊椎圧迫骨折
- 脆弱性骨盤輪骨折

3. 肺炎

- 基礎知識
- 解剖と生理
- 画像のみかた
- 評価
- 呼吸リハビリテーション
- ST評価とリハビリ
- 多職種・地域連携
- 患者家族教育

4. 心不全

- 基礎知識
- 循環器の解剖・生理
- 画像・検査のみかた
- 身体機能・運動耐容能評価
- 心臓リハビリテーション
- 多職種・地域連携
- 患者家族教育

教育・技術担当者による直接指導

集中治療リハチームにて

※常に教育・技術担当者が付き添います

- ① 医学的ハイリスク状態の患者への適切なリハビリの実践
- ② 患者急変時の適切な対応
- ③ 幅広い疾患群の理解と重複障害への対応
- ④ 強い心理的ショックを受けた患者・家族への適切な対応
- ⑤ 急性期一般病棟への迅速な移行のための多職種連携スキルの習得

各疾患別リハチームにて

- ① 医学的リスクが軽減した急性期一般病棟患者への適切なリハビリの実践
- ② Rapid Response Systemを含めた患者状態悪化時の適切な対応
- ③ 専門疾患の理解と重複障害への対応
- ④ 病棟配属メディカルスタッフとの協業
- ⑤ 回復期・生活期に向けた患者・家族への適切な対応
- ⑥ 地域の医療機関・施設との連携

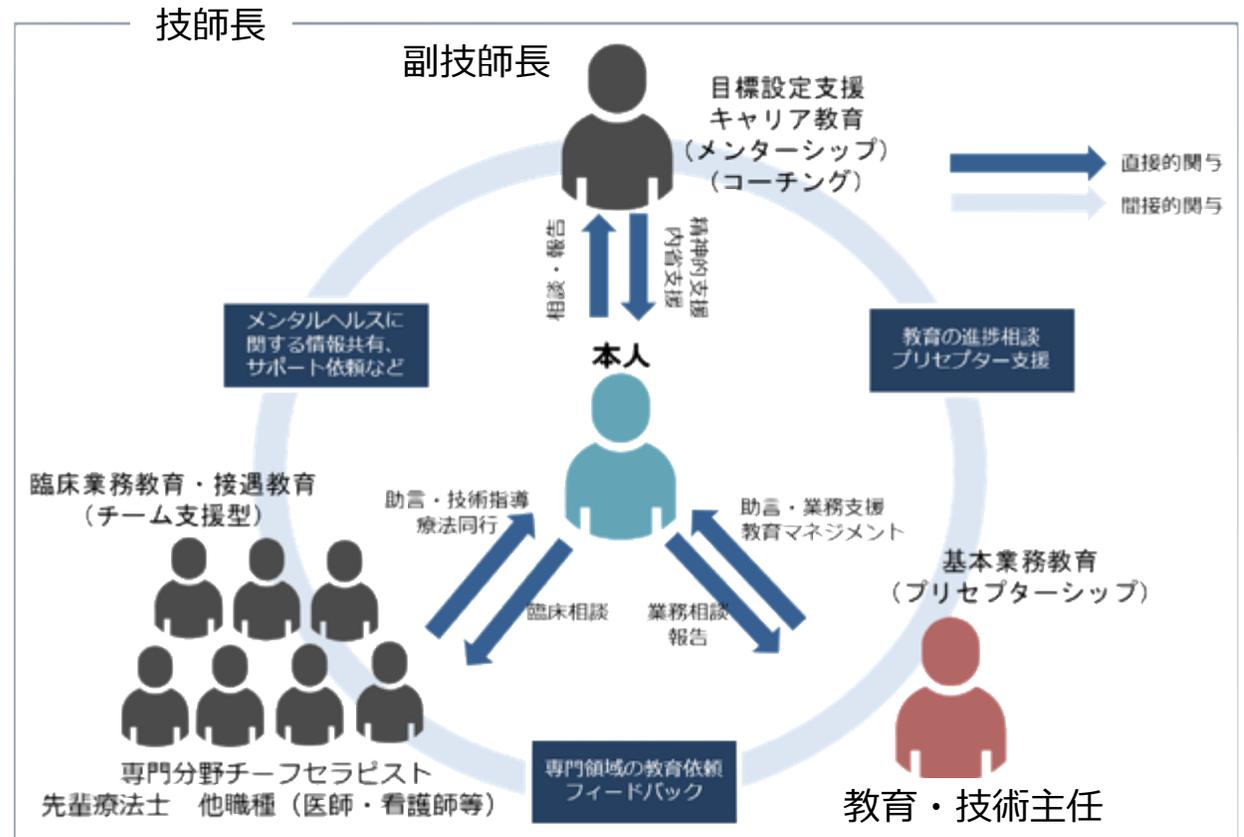
レジデントのスケジュール

- 8:30 朝礼
- 8:40 情報収集
- 9:00 教育・技術担当者と患者介入前のブリーフィング
- 9:30 教育・技術担当者と治療介入
- 12:00 昼休憩
- 13:00 午後の診療開始
- 16:00 診療終了,
教育・技術担当者とデブリーフィング
- 17:00 業務終了



レジデント管理体制

- 教育・技術主任中心に基本的な業務教育を実施
- 専門分野の役職者や先輩療法士からは、臨床業務や接遇に関する教育を実施
- 副技師長中心にレジデントのキャリア教育を実施



研修会への公費参加制度

- 2年間で充実した学びを実践するため、院外研修会への参加を**公費でサポート**します

三期生（2023年度入職）が実際に参加した研修会

- NSCAジャパン S&Cフォーラム2024
- NSCAジャパン 九州ディレクターセミナー
- 呼吸リハ研修会
- 臨床パラメータ判読術
- 循環器リスクセミナー
- テーピング講習会
- 運動器系解剖体観察会2023
- 体表解剖セレクションセミナー
- 循環アドバンス実践臨床講座

年間 約**14**万円（約**1.2**万円/月）

レジデントの声

理学療法士



私は理学療法士歴6年目でレジデントとして済生会熊本病院で勤務する機会をいただきました。現在は先輩方からのアドバイスをいただきながら、自分に不足している知識や必要とされる臨床推論など、急性期の現場でしか経験できないことを日々学んでいます。今回の研修で、理学療法士として業務に取り組む先輩方の姿を見ながら、学ぶ姿勢を忘れず続けていきたいと感じています。

言語聴覚士

リハビリレジデントとして臨床1年目をスタートしました。1年間で数多くの症例と多様な疾患のリハビリを行うことができ、とても充実しています。2年目を終えるまでに全診療科を診療できるSTを目標に業務にあたっています。また、院外での勉強会やセミナー、症例報告も経験することができます。急性期病院での働きたい人にはもってこいのシステムです。



未来を支える人材を育成し続けます！